

技術職員業務としての手話通訳

—本学における情報保障業務の運用と継承—

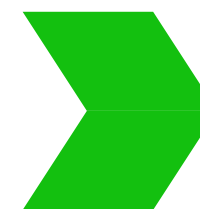


前回発表からの発展

前回

情報保障業務全体の紹介

- 筑波技術大学の概要
- 情報保障支援系の業務
- 手話通訳・文字通訳の概要
- 体制上の課題



今回

手話通訳業務の工程整理

- 依頼受付から実施後まで
- 準備・調整・運用の実務
- 専門性の見えにくさ
- 継承に向けた課題

「何をしているか」から「どう成り立っているか」へ

手話通訳は「言語変換だけ」に見えやすい

外から見えやすい部分

- 話された日本語を手話にする
- 手話を音声日本語にする
- 会議・研修・授業などの
学内の場面に同席する

見えにくいが重要な部分

- 依頼内容の確認
- 通訳方法の判断
- 通訳者の手配
- 資料共有
- 会場・位置・照明・音響の調整
- 当日の司会進行との調整
- 実施後の支払い

実務としては前後の業務の工程が大きい

本学要項における情報保障業務

情報保障支援系の主たる業務

- ◆国立大学法人筑波技術大学情報保障支援係に関する要項
 - ・聴）情報保障支援系の業務内容を規定
 - ・守秘義務について明記
- ◆手話通訳，遠隔文字情報保障，パソコン要約筆記に関する申合せ
 - ・依頼～手配～支払いのフロー

手話通訳

機器の運用・保守

遠隔文字情報保障

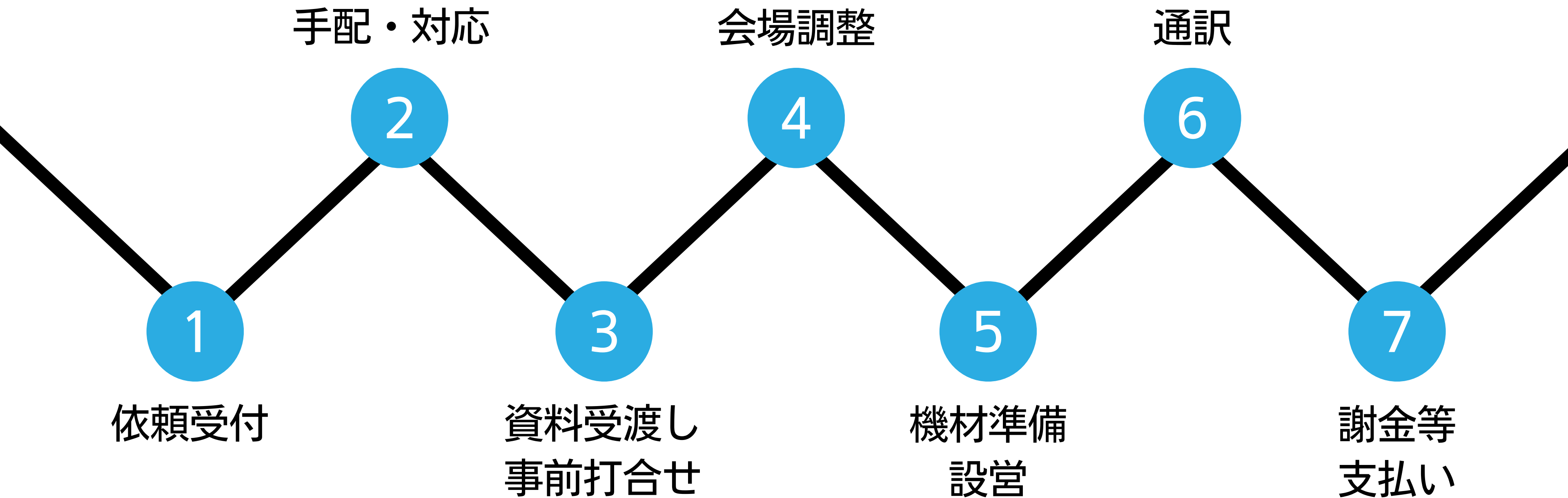
コーディネート

その他聴覚障害に係る情報保障

パソコン要約筆記

研修の企画・立案

規程上も、情報保障支援係は「通訳すること」だけでなく、
機器運用・コーディネート・研修を含む業務として整理されている



実施前

- 依頼確認
- 内容把握
- 通訳方法の判断
- 通訳者手配
- 資料確認
- 事前打合せ
- 会場・機材確認

当日

- 日本語→手話 通訳
- 手話→日本語 通訳
- 通訳位置の調整
- 進行確認
- 発言重複への対応
- 機材確認
- 必要時の介入

実施後

- 外部通訳者フィードバック
- 謝金処理
- 課題整理
- 次回への申し送り
- 記録化
- 改善

3つのサイクルを回すことも専門性

言語運用

日本語・手話等

場面判断

会議・研修・授業等

専門内容対応

用語・固有名詞・制度

情報保障が
成立する
条件を整える

視覚環境調整

位置・照明・背景・距離

倫理・守秘

会議内容・個人情報

機材対応

マイク・音響・オンライン

会議

- 双方向性
- 発言者が複数
- 意思決定に関わる
- 正確性とタイミングが重要

研修・講演

- 話者のスピードが速い
- スライド情報が多い
- 専門用語・固有名詞が多い
- スクリーンとの位置関係も重要

授業

- 継続性がある
- 教員の授業スタイルに合わせる
- 学生の反応・発言も拾う
- 教材・板書・映像との関係を見る

必要な準備、配置、通訳方法、介入の仕方は場面ごとに異なる

リアルタイム判断による情報保障の品質管理

判断事例

- 発言の重なりや話者の速さへの即時対応
- 通訳位置・照明・背景の確保を状況に応じて調整
- オンライン通訳の画面設計に必要な選択を判断

not

「親切的配慮」

but

「情報保障の品質管理としての
専門的判断」



見えにくいが重要な部分

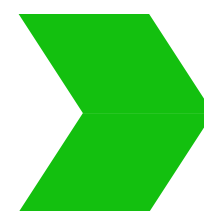
- 依頼内容の確認
- 通訳方法の判断
- 通訳者の手配
- 資料共有
- 会場・位置・照明・音響の調整
- 当日の司会進行との調整
- 実施後の支払い

依頼内容の読み取り
通訳方法の判断
専門性を見極め
外部通訳者との調整
資料共有、補足資料の作成
音響・視覚環境の確認
トラブル時の判断
実施後の記録

可視化しないと、必要な時間・人員・専門性が伝わりにくい

個人に蓄積されやすいもの

- 手話通訳技術
- 本学特有の専門用語
- 場面ごとの対応経験
- 外部通訳者との連携方法
- 機材・オンライン環境の知識
- 判断に迷った事例
- 失敗・改善事例



組織で共有できる形へ

- 確認事項の標準化
- 事前打合せメモ
- 通訳方法の判断記録
- 専門用語リスト
- 会場・機材情報
- 振り返り記録
- 引継ぎ資料

「こうなれたらいいな…」

個人の経験を、次の担当者が使える知識へ変換する

手話通訳は「言語変換」だけではない

1

手話通訳業務は、当日の言語変換だけではない

依頼受付から実施後の処理までを含む一連の情報保障業務である

2

本学の要項・申合せでも、運用業務として整理されている

機器運用・コーディネート、研修等とも関係する業務である

3

安定的な実施と継承には、見えにくい工程の可視化が必要である

準備・調整・判断・記録を、共有可能な形にしていく

手話通訳業務を整理することは、情報保障を継続可能な業務として支えるための作業である